

コロナ禍の新たな活動のカタチ

あんだんて

代表：片岡 祥夫

あんだんては、高齢者施設訪問グループです。高齢者と共に楽しむをモットーに施設訪問を続けてきました。

施設でのプログラムは、「ああ人生に涙あり」の歌に合わせて軽い体操、オカリナ演奏、詩の朗読、クイズ、紙芝居、参加者と共に歌う、などを行っています。

昨年度より、コロナ緊急事態宣言が出され今まで訪問していた施設より外部からコロナ感染拡大防止でボランティア活動受け入れ中止の連絡がありました。その後も再開できていません。

訪問先があつてのボランティア活動であり中止が長引く事での会員一同のモチベーションの低下を心配する中、何かできる事がないかを模索しています。プログラムに紙芝居があります。

以前より、紙芝居の画面寸法がA3用紙と小さく、高齢者や後方の席からは見にくいという欠点がありました。

紙芝居を写真に撮りパワーポイント、プロジェクターを使用して画面を大きく（テレビ60インチ）で実施した所好評。

その後、朗読文、クイズ、歌詞カードなどすべてパワーポイントで実施することにしました。パワーポイントの良い所は、アニメーションなどを使えば色彩豊かに画面操作を自由にできることです。

また、今まで参加者全員にA4用紙に印刷したカードを配布していた紙類も省略できます。

今まで紙芝居の画像を映し、我々が配役を決め台詞を語っていたので音声がありませんでした。

このたび、「わ」のスタッフの協力で、音声入りの紙芝居が作成できました。

USBに添付して、施設に届けスタッフが操作すれば訪問できなくても紙芝居ができます。施設スタッフからは、外部からのボランティア活動がなくなり、楽しみがなくなり困っていたところ「楽しませていただきました」の報告があり、今後も続けて行こうと思っています。

まだ、しばらくの間施設訪問はできないと思われます。対面によるボランティア活動が一日も早くできることを願っています。



みんなの食堂「なかみち・こみち」

代表：島村 千恵子

子ども達にご飯をいっぱい食べて貰いたい！子ども達の「居場所」として、また、地域の方々との交流の場所としてみんなの食堂を開催しています。

2017年7月中道地域福祉センターにて子ども食堂を開催。まる3年が過ぎ、4年目を迎えています。

現在は第1、第3金曜日に「食堂」を開催。第4金曜日は「英語学習支援」を開催しています。

昨年、春のコロナ感染症拡大により、3月より開催を中断。その後、8月より食品の「お持ち帰り」により、再開しました。また、今年1月の「緊急事態」にて、「お持ち帰り」の運営も中止しています。

「なかみち」の今までの運営形態は夕方5時頃から子ども達が来場。いっしょに工作をしたり紙芝居を見たり。その後、6時頃から夕食を共にし、子ども達や地域高齢者の楽しい「居場所」として運営していました。

昨春のコロナ感染症拡大により、一堂に会する夕食は「3密」の危険。感染防止の対策が難しく、食堂運営を中止としました。子ども達をはじめ参加者、関係者の健康と安全を第一に考慮した結果です。



コロナ禍の中、子ども達はどのようにしているのか！保護者の方々よりの「再開を・・・」。早く子ども達の「笑顔」が見たいとの思いで、再開の検討を7月頃より開始。コロナ感染症拡大により「新しい生活様式」による、「新たな食堂開催様式」としました・・・レトルト食品や米、パン、お菓子、飲み物等の「お持ち

帰り」様式です。

昨年8月より「お持ち帰り」の食堂を再開。

たくさん子ども達が来場してくれました。

「みんな元気だったあ！・・・」再開の喜びの声がいっぱいでした。

子ども達との「ふれあい」と思い、それぞれの季節のミニ催しも始めました。

「お持ち帰り」を始めて以来、多くの企業、個人の方々より食品等の寄贈を頂いています。皆さまのご厚意に感謝しています。

現在、「お持ち帰り」を中止していますが、4月より再開する予定です。

コロナ感染症が終息し、一日も早くみんなで「夕ごはん」が食べられることを願っています。



(記：なかみち・こみち 総務 藤原 利幸)